

令和5年9月8日



琴中だより

(第17号)

倉敷市立琴浦中学校

生徒会長の言葉 ～2学期を頑張ろう！ 嫌な思いをする人がいないようにしよう！～

9月4日（月）の給食時間の放送で、生徒会長から全校へこんな呼びかけがありました。

2学期が始まって1週間。みんなの学校生活のリズムは整ってきただろうか。

1年生にとって2学期は、中学校にも慣れて、本格的な中学校生活になるとき。

2年生にとって2学期は、中学校生活の折り返し地点。後半は琴中の中心的な存在となるとき。

3年生にとって2学期は、最後の体育大会、受験に向けて真剣に取り組んでいく大切なとき。

そしてどの学年も、それぞれ、人間的にも成長する重要なとき。

大事な2学期を一人一人が頑張っていくために、気持ちのよい学校生活を送ろう！

嫌な思いをする人が一人もいないよう、みんなが温かい言葉がけをして、大切な2学期を過ごそう！

生徒会長の熱い思いをみなさんも受け止めたと思います。生徒会長の思いを胸に、先生たちもがんばります！

青少年育成センターの方のお話 ～夏休み中の優しい出来事～

児島地区では、児島警察署の方、青少年育成センターの方、倉敷市教育委員会、各中学校代表教員が集まって、月1回程度の情報交換会を行っています。

先日の会で、青少年育成センターの方からこんなお話をうかがいました。

夏休み中のある日、巡回をしていると、4人組の女性から声を掛けられました。「私たちは、地域のお堂を掃除している。暑い中掃除して、途中で休憩していると、「大丈夫ですか？」と中学生たちが声を掛けてくれた。嬉しかった！琴中の子じゃった！」と話してくれました。優しい子どもたちですね。

「どこかで、だれかに、救われる。どこかで、だれかを、支える。」

「心配だなあ」と思ったとき、心配していることを行動で示すこと、「ありがたいなあ」と思ったとき、感謝していることを行動に表すことは、相手を思いやることにつながるんですね。

廊下と階段でのお話 ～3年生、ちゃんと自分の進む道を考えています～

ある日の休憩時間、廊下で「校長！」と声を掛けてくれた3年生に「行きたいところは決まってる？」と尋ねると、「〇〇高校の〇〇科に行く！」と即答しました。

「けっこう遠いなあ。まさか“ママ号”“パパ号”で毎日通うつもりじゃないよな。」

「どうやったら（通学）時間が短くなるか、教えてよ！」

これは本気です。本気になればなるほど、質問が具体的になります。

別の日の放課後、階段でばったり会った3年生に「県大会よう頑張った！部活動は続けるの？」と尋ねると、うつむいて「まだ、迷っとる。」

これも本気です。本気になればなるほど、悩みは尽きません。

3年生は、教育相談週間を前倒しして、“ちょっとした進路相談”を実施中です。自分の進む道をすんなり見つける人、悩みに悩む人。すんなり見つけたけれど、なかなか道にたどり着けない人、たどり着こうとしてさらに悩む人、（ときどき、周りを悩ませる人）と様々ですが、その道を進むためのカギになるのは「(本人が)本気になるかどうか。」です。ただし、本気になればなるほど知りたいことが増えて忙しくなるし、悩みも増えて大変です。覚悟しましょう！